

## 「学援隊ありがとう朝会」より裾野の話 人は自分を映す鏡

副校長 船山 道太

岡村小学校では、保護者の協力をいただき、学援隊の活動が、継続して行われています。通称、三角畑前の横断歩道付近に立ち、子どもたちの登校の見守りを続けてくださっています。雨の日も、風の日も、雪が降る日もです。大変有り難い支援を賜り、ここまで交通事故に遭うことなく安全に登校することが叶っています。

この二月、学援隊の皆様の思いや願いを改めて確認するとともに、日頃の感謝の気持ちを代表児童が手紙に書き、伝える機会をもつことができました。代表児童は、交通安全への意識をもつとともに、毎日のように見守ってもらえ安心感をもつたことを、自分の言葉でしっかりと伝えていました。学援隊の皆様からは、ドライバーのマナー向上を願うとともに、ガードレールの外や車道にはみ出す子どもが散見されることなどから、子どもたち自身が、さらに安全に歩行できるようになることを望んでおられました。

さて、学校への不審者の侵入を防ぐため正門、裏門、駐車場門の施錠の再徹底を図りました。登校時刻を終えると施錠をして回ります。それがきっかけで、開門から施錠までの間、子どもたちとかかわる時間をいただくことになりました。

高橋の下、百段階段を上り切った横断歩道のところにも、子どもたちの登校を見守ってくださる保護者の方がいらっしゃいました。私も、いっしょに立たせていただいて、交通整理をさせていただきながら、子どもたちの登校の様子を観察させていただくことにいたしました。

そこでは、子どもたちに私から進んで挨拶をすることをいたしませんでした。子どもの様子を見て 子どもがするように、同様に返すことを続けています。年度当初は、私は異動してきたばかりでしたので、子どもたちにとってはよく知らないおじさんが、門のところに立っていると感じていたことと思います。警戒心もあったでしょうから、私に対して、働きかけてくる子は、多くはありませんでした。これも正解と思っていました。

しばらくしますと、子どもたちが様々なアクションを起こします。「おはようございます」と声をかけてくる子ども。おじきをして横断歩道を横断する子ども。「こんにちは」という子どもに、「朝だから『おはようございます』でしょ」と、つつこみを入れる子ども。子どもたちの動きを黙って追ってみますと、通り過ぎ、しばらくしてから、振り返って（なんとこのタイミングで？）挨拶をする子どもがいることも分かりました。話に夢中な様子で通り過ぎていく子どもたち。わざわざ立ち止まって、深く腰を折り、丁寧に挨拶をする子どももいます。三人が同時に挨拶をするようなときは、私なりに三人にそれぞれ三回旗を上げるなどして、一人ひとりに反応するように努めます。中には、私に気付かれぬように そおっと通り過ぎて、私が気づけなかったことを試す子どももいます。おもしろいです。今では、80 パーセント程度の子が何らかのかたちで私にアクションを起こします。この頃は目が合う子が少し増えてきました。学援隊ありがとう朝会の2日後、ついに「いつもありがとうございます」と声をかけてくれる子どもが現れました。ありがとうございますと言われますと、嬉しくなります。人を喜ばせる計算のない高度なアクションです。

最後に高橋・三殿台から、駆け下りてくるような場合も、一度、しっかりと立ち止まって、安全を確認してほしいと、切に願います。学校付近は、交通量は少ないとしても、高橋には立派な風よけ、三殿台付近には高い擁壁があるので、車両側からすると、歩行者に気づきにくいのは、確かです。あそこを止まる。

人は自分を映す鏡という言葉があります。たぶん自分が相手に感じていることを、相手も、感じているのだらうと。自分は相手。相手は自分。相手を通して、自分を知ることができるのかもしれませんが。謙虚さをもつことができれば、それをヒントに、自分の考え方、行動、習慣を変え、成長することができるのかもしれませんが。

アクションとリアクション。愛のある言葉には、嬉しい気持ちとその表情が返っていく。嫌なことをやり返すも、返されるのも一つの表れ。でも、今日も、一人でも多くの方が 喜んでいてほしいな。



【上写真】学援隊ありがとう朝会 2022.2.22H.P.より